

所在 仁位村 宇賣 (下縣郡仁位村)

祭神 表津綿積命

中津綿積命

今按長崎縣式内社記に祭神綿津見三柱大神とみえ由緒書に神功皇后韓國に幸し玉ふ時此琴崎東澳を過て御船を繫き給ふ御船の碇海底に沈みつるを以て陀取安曇磯武良海中に入て碇を取上ると云今の祭場は皇后の行宮故跡なりと云る安曇磯武良は安曇磯良なき八幡愚童訓の類にみえたる同人と聞え此人名古書には見あたらねど海神の未裔にて皇后の御時に舟楫に功ありし人なりけんを誤り傳へたるものなるべしさて思ふに此人名を傳へて祭神綿津美

胡祿御子神社

祭神 豐玉毘賣命

中筒男命

底筒男命

今按長崎縣式内社記に祭神豐玉毘賣命表筒男中筒男底筒男命とあれどもとは住吉三柱神なるを胡祿御子神社とあるに依りて豐玉毘賣を加へたる由なれば從がたし又住吉三柱神を祭ると云は神功皇后の祭り玉ふ處と云傳ふるのみにて確證なければ疑はしきに似たれど姑く社説に從て記せり
神位 仁明天皇承和四年二月戊戌對馬島上縣郡无位胡祿御子神奉_レ授_二從五位下_一清和天皇貞觀十二年三月五日丁巳詔授_二對馬島從五位上_一胡祿御子神正五位下_一

祭日 三月三日

社格 村社

所在 長崎縣琴村 宇賣 (上縣郡琴村)

島大國魂神御子神社

祭神

今按式内社記もと大己貴命一座なれど國史を考るに狭手依比賣神なるべし依て之を加祭るとあるは島大國魂と云に就ての説ながら其島大國魂御子神なれば必ずしも狭手依比賣も定のがたく又大己貴命にもあるべからず
神位 清和天皇貞觀十二年三月五日丁巳授_二對馬島大國魂神御子神從五位上_一
祭日 十一月一日

社格 村社

所在 佐須奈村 宇地 (上縣郡佐須奈村)

大島神社 (明細帳になし取調の事)(稱和多都美神社)

祭神 彦火々出見尊

豐玉姬命

今按長崎縣式内社記に舊神官家系を記して長岡續生家系德高見命八代孫阿曇龍崎山城國乙訓郡長岡の神官津島の國に渡り大島神社宮司となり當代長岡續生に至るまで百卅一代連綿すとみえ祭神彦火々出見命豐玉毘賣命を祭る

對馬島 下縣郡

さあるに合せ考るときは其安曇氏の祖神を祭れるものなる事明也故今之に従ふ

祭日 六月初未日

社格 村社

所在 仁位村 宇海 (下縣郡仁位村)

波良波神社

祭神 豐玉彦命

今按明細帳式内社記共に祭神豐玉彦神とあれど其傳説も詳かならねば疑はし附て後考を俟つ
官社 仁明天皇承和七年十一月庚辰對馬島波良波神項_二官社_一

祭日 六月一日

社格 村社 (明細帳になし仁位村和多都美神社境)

所在 仁位村 社境内 (下縣郡仁位村和多都美神社境内)

○下縣郡十三座 大四座 小九座

高御魂神社 名神 大

祭神 高皇產靈尊

建彌已巳命
今按明細帳式内社記共に祭神を記す事右の如し高皇產靈尊は事もなけれど建彌已巳命は國造本紀に津島縣直權原